

ちょこっと塾

江戸時代の教育 -寺子屋-



- 学校が決めた時間割
- 国が決めた授業内容
- 比較的厳密な出席管理



- 勉強したい時にできる時間割
- 自分で決める授業内容
- 緩やかな出席管理

どんなことを勉強すればいいんだろう？

江戸時代の学校



皆まじめに課題の手習いに集中している。比較的身分の高い家の子弟のための手習所



師匠と数名の補佐が個人指導。指導を受けていない子供は好き勝手に。一部を拡大すると。



年齢もいろいろ、登校時間も下校時間も学習時間もマイペース、まじめな子も遊ぶ子も。



楽しそうに自分のペースで手習いを。悪さをしたためにお仕置きを受けている子供も。線香が持てなくなるまで、天神机の上で正座して水の入ったどんぶりを抱えさせられる。

江戸時代の習い事

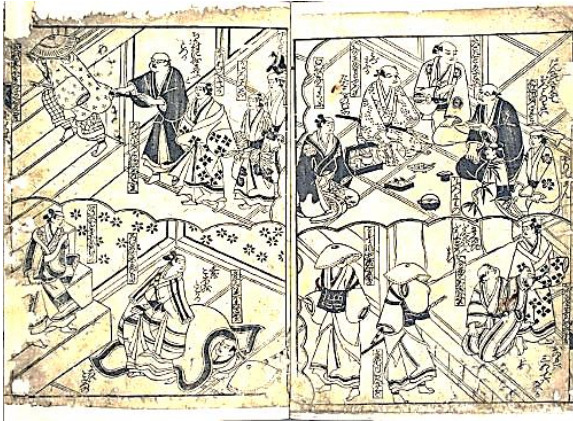
- **手習い**: 文字をきれいに書くこと。手本は四書五経や往来もの。
四書五経: 9つの**儒教の経典**。四書は、大学、中庸、論語、孟子、五経は、詩経、書経、礼記、易経、春秋。
往来もの: **往復書簡集**。百姓往来、商人往来、番匠往来、庭訓往来など。
- **素読**: 意味の解釈は二の次にして、文章を暗唱すること。（「読書百遍意自ずから通ず」を実践。） 手本は、四書五経の他、源氏物語など
- **そろばん**
- **裁縫**
- **三味線**: 現代のピアノに匹敵する音曲。琴よりも庶民に普及。
- 礼法
- 小唄・舞踊
- 華道・茶道
- 川柳・狂歌

1603-

江戸時代

-1867

元禄文化：上方中心
元禄時代(1688-1703)



近松門左衛門：歌舞伎



俵屋宗達：風神雷神図屏風

化政文化
文化・文政時代(1803-1830)



葛飾北斎：神奈川冲浪裏



十返舎一九：東海道中膝栗毛



論語卷第一

學而第一

何晏集解

子曰學而時習之不亦說乎馬曰子者男子也王曰時者學者以時誦習之誦習以時學無廢業所以為說擇
 有朋自遠方來不亦樂乎包曰同音門曰人不

論語卷之上

朱熹集註

學而第一

子曰學而時習之不亦說乎子多クマデデ 習くマラスコトバマダ 言ハシキヤアリトモヨリエン
 有朋自遠方來不亦樂乎ハウキタリバ マダクニカラヤ ヒトズ シラシカラバズイキカラバズ マダクニ
 人不知而不愠不亦君ニテラヤ ヌカハク トナリヒト カサテイマカマ ヲムヲ多クモ

學而第一

子曰わく學びて時に之を習う亦説は
 しからずや 朋遠方より来る有り亦樂
 しからずや 人知らずして愠みず亦君

子曰、学而不思則罔、思而不学則殆。

子曰わく、学びて思わざれば則ち罔し（くらし）、思い学ばざれば則ち殆し（あやうし）。

先生がいわれた。「学んでも、自分で考えなければ身につくことはない。また、自分で考えるだけで人から学ぼうとしなければ、独断に陥ってしまい危険である。」

子曰、君子求諸己、小人求諸人。

子曰わく、君子は諸（こ）れを己れに求め、小人は諸（こ）れを人に求む。

先生がいわれた。「君子は〔反省してその原因を〕自分に求めるが、小人は他人に求める。」

子曰、君子和而不同、小人同而不和。

子曰わく、君子は和して同ぜず、小人は同じて和せず。

先生がいわれた。「君子は人と調和するが雷同はしない。小人は雷同するが調和はしない。」

子曰、知之者不如好之者、好之者不如樂之者。

子曰わく、これを知る者はこれを好む者にしかず。これを好む者はこれを楽しむ者にしかず。

先生がいわれた。「（学ぶにあたって）これを知っているという人はこれが好きだという人に及ばない。これが好きだという人はこれを楽しんでいる人に及ばない。」

庭訓往来 目次

<http://www.geocities.jp/ezoushiip/teikinouraikousyaku.html>

庭訓往来講釈 目次

各月状の往・返をクリックすると手紙の釈文に移動します。

序文

往信

返信

(一) 正月状往

年始挨拶と射芸遊技会のお知らせ。
(正月と弓術に関する用語)

(二) 正月状返

春の遊宴お招き珍重。弓事に達者な者を
一人二人連れて伺います。

(三) 二月状往

花見お誘い。連歌和歌の達者な者を
一兩人お誘い下さい。

(四) 二月状返

花の下の詩歌管弦はなによりの慰め。
承りました。
(歌道に関する用語)

(十三) 七月状往

来月下旬風流な催しをすることになりました。
七月書状のみ文中の挿絵は「庭訓往来諺解」の
挿絵を使用。 庭訓往来諺解は嘉永5年刊。
(東京学芸大学望月文庫所蔵)
(装束・染物・日用品に関する用語)

(十四) 七月状返

必要な品は目録に合わせてお貸しましょう。
七月書状のみ文中の挿絵は「庭訓往来諺解」の
挿絵を使用。 庭訓往来諺解は嘉永5年刊。
(東京学芸大学望月文庫所蔵)
(装束・仏具・楽器に関する用語)

(十五) 八月状往

(十六) 八月状返

正月状 往 （文例）

初春のお慶びを先ず恵方に向いお祝致しました。

貴方様の富貴万福なお一層の幸甚をお祈りいたします。

とりわけ年頭のご挨拶は元旦に次いで急ぎ申すべきですが、折しも子の日の遊びに当たり、人々の野遊びにそゝのかかれて、心ならずもご挨拶が遅くなりました。

あたかも軒の花に遊ぶ鶯が、(谷が寒いので)人家の暖かさに惹かれてしまい、軒の梅のつぼみが開きかけているのを忘れているような、又、苑(その)の胡蝶が春陽(はるひ)の移ろいも知らないで日影(ひなた)で遊んでいる様なもので、全くもって本意ではございません。

さて射事遊技会(楊弓雀ようきゅうすゞめの小弓の会・笠懸・小串の会・草鹿くさじゝ・円物の遊び・三々九の手挟・八的やつまと等)を近日中に開催します。弓馬の達者な者をお誘いになりお見え頂ければ幸いです。心に思うことは多いのですが拙筆にて委しく書くことも出来ません。

参会の序ついでを待って申し上げます。恐々謹言

正月五日

謹上 石見守殿

左衛門尉藤原知貞

儒教の教え

- 孔子の教説を中心とする哲学体系である儒学を、国家教学としての規範性を強調した呼び名。主な思想は3綱領8階梯。江戸時代に普及。中国では清朝末まで体制教学となった。
- 基本思想:「修己治人」(道徳的修行をして世を治める)
- 倫理:仁義礼智信の五常
 - 仁:尊厳の尊重、忠(真心と思いやり)。孝(父母)、悌(兄弟)の順。
 - 義:公正、正義。
 - 礼:秩序を維持するための規範習慣。謙虚な心情。
 - 智:事の善悪を判断する知識、能力。
 - 信:天地神明にかけて嘘偽りのないこと。
- 3綱領:「明德を明らかにし, 民に親しみ, 至善に止まる」
- 8階梯:格物, 致知, 誠意, 正心, 修身, 齊家, 治国, 平天下

日本の歴史

500 1500		1000		
645 大化の改新	710平城京	794 平安京	1185 鎌倉幕府	1467応仁の乱
仏教伝来 538	古事記？ 万葉集	900古今和歌集 1000枕草子	1230平家物語 1330徒然草	1333鎌倉滅亡
	大学寮(書道・陰陽道・)	綜芸種智院	金沢文庫 足利学校	
1500 2000	1600	1700	1800	1900
	1603 江戸幕府	1716 享保	寛政 葛飾北斎	1868 明治維新
		1702奥の細道	天保	1912大正元年
	昌平坂学問所		藩校 寺子屋 私塾	1926昭和元年
				平成元年1989
				令和元年2019

大化の改新: 天皇制の確立 **平安時代**: 日本独自の文化 **鎌倉幕府**: 武士の政権
江戸時代: 安定的幕藩体制+経済発展+町人文化の隆盛 **明治維新**: 天皇親政+藩閥政治
明治憲法体制: 天皇主権+議会制+中央集権 **日本国憲法体制**: 国民主権+議院内閣制

現代の正義論

- **功利主義**: ジェレミー・ベンサムによって提唱され、19世紀にジョン・スチュアート・ミルなどによって確立された倫理基準。社会全体の快樂を数量化して、最大多数の人が最大の幸福を得られるような法律や政策を目指すことを良しとした。多数決も社会全体の幸福をとらえる一手段であるが、人々の幸福が一部の人々の不幸の上に築かれぬよう注意を要する。また、快樂の質も重要で、刹那的の身体的快樂よりも持続的心身包括的な快樂が求められるべきであることも指摘されている。
- **主知主義**: 18-19世紀のカントの代表される正義論。理性と良心に基づいた平等で普遍的な正義を想定し、感情を制御することによって正義を実行することを主張した。真実に対する敬意は強く「嘘も方便」という立場を認めない。個々の人間の尊厳を認め、他人を手段として使うことを否定した。
- **徳性の涵養**: アリストテレスは教育の目的を、良き市民としての徳を涵養することと考えた。有徳の指導者による治世を目指すことは、仁義礼智信を尊重して世を治めるという儒教の教義と共通するものがある。人を尊重し、私利私欲にとらわれず、礼を重んじて知識を大切にするという規範は、定量性に乏しいために正義の基準として曖昧であるが、支配者に正義と公平性を要求する点で重要である。

自分の人生を生きるために 今、何をしよう

- 江戸時代の人、「読み」「書き」「そろばん」が大切だと思った。
- 同じころのヨーロッパの人も、貿易で利益を得るために、若者に、「読み」「書き」「計算」を教えた。
- 今の時代も必要だよ。
- その他に、社会常識、コンピュータアプリ利用技術、コンピュータ制御技術、英語、技能、芸術、…自分に合ったものをこれからさがそう。
- 加えて、正しい行いをすることや、他人の尊厳を尊重することが大切だ。江戸時代の人たちに共通する課題だね。